畜産危機は市農業全体に影響を与える重要問題

今号では、私の3月議会一般質問の中の畜産危機についての質問の大要を報告します。

【橋爪】いま、上越から酪農・畜産の灯が消えるかどうかの瀬戸際だと受け止めている。市長は、当市の畜産危機の現状及び原因について、どのような認識を持っているか。

【中川市長】市内における牛の畜産農家戸数及び飼養頭数は、令和5年2月末現在で22戸、681頭であり、そのうち酪農家は8戸、138頭、肥育牛・繁殖牛農家は14戸、543頭だ。

畜産業を営んでいる農家の皆さんからは、「畜産を続けたいが、後継者がいない」、「飼料や燃料が高騰し、経営が厳しい」、「設備投資ができず、飼養頭数を増やせない」、「排泄物を堆肥化する置き場がない」など、それぞれが直面している経営課題をお聞きしている。

畜産農家が減少している原因としては、経営者の高齢化が進む中での後継者不足による離農が何よりの要因と認識しているが、昨今の全国的な生産資材や飼料等の価格高騰、子牛価格の値下がりなどの影響が、畜産経営をさらに圧迫し、離農の加速につながることを危惧している。

【橋爪】関係農家は、飼料高騰対策、牛乳消費拡大などで支援を求めている。市として、支援についてどのような検討を行っているか。また、畜産危機打開のためには、国の農政の転換が必要だと考える。国に対して、配合飼料の高騰前と現在の価格との差額を全額公費で補填する緊急支援、カレント・アクセスによる乳製品の義務的全量輸入を停止すること、酪農・畜産の窮状を広く国民に伝え、牛乳、乳製品の消費拡大への協力を訴えることなどを求めるべきと考えるがどうか。

【市長】昨今の飼料価格の高騰については、原料の平均輸入価格が基準輸入価格を超える場合に、上回った金額を限度額として補填する国の「配合飼料価格安定制度」に加え、新たに国で整備した原料価格の高止まりによる農家の負担額の増加を抑制する「配合飼料価格高騰緊急特別対策」を活用することにより、畜産経営への影響を緩和している。

牛乳の消費拡大につきましては、令和4年6月に、酪農・乳業関係者はもとより、様々な企業・団体・自治体など、官民から幅広く参加を募り、更なる乳製品の消費拡大に取り組む「牛乳でスマイルプロジェクト」を国で立ち上げ、様々な取組を展開している。

市では、こうした国の動向を注視する中で、長引く飼料や燃料などの価格高騰により、農家の生産意欲の低下を懸念し、昨年7月、持続可能な生産活動を維持できる支援制度の創設・拡充など、必要な措置を早急に講ずるよう、県市長会に提案し、同年11月には全国市長会から同様の趣旨の要望が国へ提出されたところだ。

いずれにしても、当市の畜産業を将来に渡って継承していくため、畜産農家や関係機関・団体で構成する「上越地域畜産クラスター協議会」を中心に、施設や機械の共同利用、担い手の確保・育成、耕畜連携による自給飼料の確保や堆肥処理の効率化のほか、出荷・販売業者等と連携した“くびき牛”の消費拡大など、引き続き、畜産農家に寄り添いながら、畜産振興に取り組んでまいりたい。

【橋爪】市の食料農業農村基本条例の前文には、「有機栽培を中心とした環境にやさしい循環型の持続的に発展する農業を確立し、地域内での自給を基本とした安全な食料の安定的な供給のもと、都市機能と農村の持つ自然環境が調和する緑の生活快適都市にふさわしいまち。言わば農都市を形成を図ることを決意し、新たな理念のもとにこの条例を制定する」とある。

畜産危機の問題は単なる畜産危機の問題ではない。上越市の（特徴のある）農業を守れるかどうかにかかわってくる。それだけじゃない。農都市として、都市部と、農村を調和させた新しい都市を作っていこうというこの理念も壊れてしまう。

国に対する働きかけも大事だが、まずは、市政においてできることをやってくださいませんか。例えば、他の自治体では、エサ1トン当たり、数百円の補填の補助出している。関係農家の皆さん方と十分話し合って、緊急対策を考える。そこで一定の財政的な措置が必要だったら、6月議会に補正で出す。これぐらいのことをやって欲しいんです。市長お願いできますか。

【市長】短期的に金銭面で支援していくこともあるが、できるだけ自分、地元でエサが供給できるような仕組みを作っていくことも、私たちの取り組みとしては必要なのかもしれません。その辺りも含めて、いろいろな対応を研究して参りたい。

【ハクモクレン】モクレン科の落葉高木の1種。漢字で「白木蓮」と書きます。大きい木になると20メートル以上になるものもあります。樹齢を重ねても、樹皮は裂けたり、かさぶたになったりはしません。かくありたいものです。花期は2月～4月。花言葉は、「気高さ」「崇高」「自然への愛」など。写真は、吉川区長峰にて3月25日に撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.2104 2023.4.2

発行・編集 日本共産党上越市議　橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」は←こちら

橋爪法一　検索

春よ来い

第七五一回　昔食べたナシ

大島区竹平の母の実家にあるナシの木を話題にしたときでした。ショウキさんが、「子どもの時分、食べたナシって、ばか硬かったこて」と言ったのは……。

私が子どもだったころ、近くでとれる秋の果物と言えば、柿とナシくらいでした。

そのうちナシは、私のところでは「砂ナシ」と呼んでいて、大きさは直径三㌢ほどの小さなものでした。このナシの最大の特徴は硬いことだったのです。

あまりにも実が硬いので、表面から少しずつ食べた記憶が私にはありました。ショウキさんも同じだったんですね。

ショウキさんは、「そういえば、ナシには虫もつかなかったな。まあ、虫も歯が立たないこて。あの硬さなら」と言ったのですが、ショウキさんらしいユーモアたっぷりの言葉を聞いた人たちは、「また、始まったな」と思い笑っていました。

硬いナシの実に虫がつかなかったというのは当たっていると思います。私も虫が食べた「砂ナシ」は見たことがありません。虫がつかなかったとしたら、その理由は別のところにあったのではないでしょうか。

ただ、私が子どもの頃、蛍場で見たものは、ショウキさんが言っていたものよりは少しやわらかかった感じがしました。甘みもちょっぴりありましたので、子どもたちに人気で、競争して食べていました。蛍場の子どもたちは、このナシを「チョウチのナシ」と呼んでいました。

「チョウシのナシ」は蛍場から水源分校に至る道のそばにありました。標高百五十㍍ほどの高さのところでした。

前にも「ナシ泥棒」というタイトルで書いたことがありますが、忘れられない思い出があります。それは蛍場の男の子数人で薄暗くなってからナシを盗みに行ったのです。ところが、木に登ってナシを食べていたところを近所のお父さんに見つかり、叱られ、逃げ帰ったのです。

この思い出話をショウキさんにしたところ、「おらたちも盗んで食べて、〝ぎゃんども〟と言わんて叱られた」といいます。当時は「ナシ泥棒」が流行っていたのでしょうか。それにしても共通の苦い思い出を持っているとはびっくりでした。

ショウキさんと話をしていて、もう一つ思い出したことがあります。「砂ナシ」とは別の「ナナトリのナシ」です。直径は五、六㌢。「砂ナシ」とは比べものにならないほど甘みがあって、「この世にこんなに美味しいものがあるのか」と思うほど魅力的でした。

この「ナナトリのナシ」の木はわが家の親戚である「東」（屋号）の家のものでした。蛍場から国造山（こくぞうやま・ナナトリの正式名称）を越えて石谷に至る道の途中、ススキが一面に広がった場所がありました。その一角だったか、その近くだったかは忘れましたが、「ナナトリのナシ」の木はそこら辺にありました。

木はそう高くはなく、三、四㍍だったと思います。明らかに栽培している木だとわかるものでした。数年前にナナトリに行った際、この木を探しましたが、見当たりませんでした。五〇年以上も前のことですから、たぶん、この木はもう無くなっているのだと思います。

「チョウチのナシ」の木はいまも元気です。毎年、白い花を咲かせ、実もなっているようです。母の実家のナシの木も「チョウチのナシ」とほぼ同じくらいの樹齢かと思いますが、これも元気です。

硬い実を生らせるナシは改良前の自然に近いナシです。美味しさは改良されたナシに遠く及びませんが、「ナシの原点の味」には忘れがたいものがあります。この味を知り、果物の安全、安心な味を追求する若者が出てきてくれるとうれしいのですが。

親子で取り組んだ水墨画に感動

ミュゼ雪小町で開催されていた第1回にいがた水墨画フェスティバルを観てきました。

びっくりしたことの1つは一般公募作品のトップに中川市長の作品があったことです。市長の「上越に春よ来い」という作品は春を待つ人たちの温かさが伝わってきて、とても良かったです。展示されている作品の中には、吉川区原之町出身の橋爪進さんのツバキの絵もありました。この人も多彩な能力の持ち主です。とても素敵な絵でした。

感動したのは、水墨画家の笹川春艸さんが作品の解説をしてくださったことです。大町小学校の親子体験教室で制作した作品の展示場所にいたときに、笹川さんが来られました。展示作品は魚を描いたもの、野菜を描いたものなど、どの作品も初心者とは思えないほどうまく描けていました。笹川さんは、「これは子どもさんの作品を見ながら、親御さんが描いておられたんですよ」などと説明してくださいました。笹川さんの解説で絵を描いている親子の楽しそうな様子が目に浮かびました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	3月22日（水）	3月29日（水）
上越南消防署	０．０５３	０．０４７
上越北消防署	０．０４７	０．０５０
新井消防署	０．０５０	０．０４３
頸北消防署	０．０４７	０．０４７
頸南消防署	０．０６３	０．０７０
東頸消防署	０．０４７	０．０４７
名立分遣所	０．０５０	０．０６０
高士分遣所	０．０５３	０．０４７